

コスタリカ外務省に於ける JICA チェア開講挨拶（仮訳）

JICA コスタリカ

所長 吉田憲

サンホセ 2025 年 9 月 9 日

アレハンドロ・ソラーノ・オルティス外務次官閣下

マリア・イサベル・サナブリア・カストロ外務アカデミー所長

マルコ・ビニシオ・メンデス・コト外交学修士課程コーディネーター

マリア・フェルナンダ・モラレス・カマーチョ JICA チェア UNA コーディネーター

有吉勝秀駐コスタリカ日本国特命全権大使閣下

国際大学、加藤博教授

そして本日も列席の皆さま、

おはようございます。

私は国際協力機構（JICA）コスタリカの所長、吉田憲と申します。

まず初めに、このように格式ある場で本講義シリーズの開催を実現していただき、心より感謝申し上げます。今回の取り組みは、JICA と多くの関係者の皆様のご尽力によって実現したものであり、深く敬意を表します。この共同の努力により、加藤教授をお迎えし、コスタリカにおける JICA チェア・プログラムを推進することができました。

また、加藤教授には、国際協力および開発援助のマネジメント分野における豊富な知識と貴重なご経験を共有するため、遠く日本からお越しいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

この講義シリーズは「JICA チェア、日本研究支援プログラム」の一環であり、JICA が世界各国の大学と連携して展開しているものです。ここコスタリカでは、国立大

学（UNA）およびコスタリカ大学（UCR）がそのパートナーとして参加しています。

JICA チェアは、日本の開発経験を多角的に理解・研究していただくことを目的として設立されました。対象分野は、歴史、文化、経済、教育など多岐にわたります。そのため、JICA とパートナー大学はこの目的の実現に向け、講義やコース、シンポジウムなどの活動を積極的に行っています。

また、去年は UNA の教授 2 名、UCR の教授 2 名が日本を訪問し、現地の大学や関係機関を訪ねてこのプログラムについて理解を深めました。私たちは、JICA チェアがコスタリカにおける日本研究の基盤づくりに寄与することを強く期待しています。

さらに、2023 年には、この名誉あるコスタリカ外務・宗務省、JICA、そして国際大学との間で覚書が締結されました。この覚書に基づき、コスタリカの公務員が日本の国際大学における国際公共政策修士課程に留学できる制度が設けられ、人的資源および能力開発の促進を目的としています。

最後に、JICA とコスタリカの協力の歴史はすでに半世紀以上に及びます。その歩みの中で、この外務省は常に重要な役割を果たしてこられました。JICA が提供するさまざまな協力形態の普及と実践を通じて、両国関係の深化に貢献していただいたことに深く感謝申し上げます。

これからも、コスタリカと日本が信頼と友情の絆をさらに強め、長きにわたり良好な関係を築いていけることを心より願っております。

ありがとうございました。プーラ・ビーダ！